

R P P Cメール

リサイクルポート推進協議会

第540号(平成26年8月6日発行)

【今週号の主な内容】

■《今週の報道発表》 今週の報道発表はございません。

■《RPPC 事務局からのお知らせ》

1. 次回汚染土壌事業化PT開催日程について

■《リサイクルポートに関連する最新の情報》

1. 国交省港湾局、生物共生型港湾構造物の整備・維持管理Gラインまとめ

2. 日本製紙、石炭灰を有効利用しコンクリート用混和材の生産・発売を計画

3. 環境省、平成 26 年度低炭素型3R技術システム実証事業に4件採択

=====
《事務局からのお知らせ》

1. 次回(第5回)汚染土壌事業化PTは、みなと総合研究財団3階会議室において8/22(金)15:30~17:30の日程で開催いたします。

【事務局】

=====
1. 国交省港湾局、生物共生型港湾構造物の整備・維持管理Gラインまとめ

国土交通省港湾局は7月下旬、「生物共生型港湾構造物の整備・維持管理に関するガイドライン」をとりまとめ公表した。ガイドラインでは護岸、岸壁、棧橋、防波堤等を新設、改修する際、生物共生型港湾構造物を整備することで得られる効果や費用、整備計画の手順、設計、維持管理の方法等を記載している。内容は国交省港湾局のホームページから入手可能。

生物共生型港湾構造物は、港湾の自然再生の観点から生物の多様化や環境改善等の効果が得られる方策として期待されている。これまで護岸前面に緩傾斜を設けて藻場や魚礁を造成する整備や、棧橋構造の生物共生床を設置する取り組みが行われている。

干潟タイプでは、岸壁前面の浚渫土砂を干潟材料として活用できるほか、磯タイプ、ブロックタイプでは企業活動で発生する産業副産物（鉄鋼スラグ、石炭灰造粒物、焼却灰溶解スラグ等）を材料として活用できるメリット等があるとしている。

【港湾空港タイムス】

.....
2. 日本製紙、石炭灰を有効利用しコンクリート用混和材の生産・発売を計画

日本製紙は今年度から、石炭ボイラーで発生する石炭灰の有効利用として、コンクリート用混和材「高品質フライアッシュ(CfFA)」を生産・発売するための実証事業に取り組む。7月にゼロテクノ(本社大分市)と「日本製紙ゼロテクノ東北」を日本製紙の石巻工場内に設立しており、同実証事業を通じて東北地方の震災復興に貢献する建設資材としてCfFAの普及を目指す。

日本製紙は本年1月、独法科学技術振興機構が実施する復興促進プログラムに、ゼロテクノ、東北大学、大分大学と共同で、石巻工場で発生する石炭灰を原料とする「復興の基幹建設材量となるコンクリートの長期耐久性を可能にする改質フライアッシュの技術開発」を申請し、採択されている。

【港湾空港タイムス】

3. 環境省、平成26年度低炭素型3R技術システム実証事業に4件採択

環境省廃棄物・リサイクル対策部リサイクル推進室が公募していた「平成26年度低炭素型3R技術システム実証事業」に、東京製鐵の「鉄スクラップの自動車部品への高度利用化技術調査」など4件が採択された。

同公募には10件の応募があり、事業における環境改善効果の評価方法、実現した場合の環境改善効果の見込みなどの視点で、事業評価検討委員会が審査し、最終決定した。採択した4件の事業者、テーマは次の通り。

- ▽(一社)日本ELVリサイクル機構(申請実証事業名:使用済み自動車由来のプラスチックリサイクルの促進と効率化の検討)
- ▽東京製鐵(鉄スクラップの自動車部品への高度利用化技術調査)
- ▽三菱UFJリサーチ&コンサルティング(自動車リサイクルにおける素材生産制約物質の低減・資源利用効率の向上に資する解体・破砕プロセスの実証化事業)
- ▽マテック(自動車のガラスリサイクルの推進事業)

【港湾空港タイムス】

#####

発行者:RPPC 広報部会

部長:徳田 英司 新日鐵住金(株)

部会員:細貝 隆司 五洋建設(株)

堀江 良彰 東京都

加賀谷 聡一 (株)酒田港リサイクル産業センター

紫牟田 和隆 光和精鋳(株)

新谷 聡 りんかい日産建設(株)

リサイクルポート推進協議会事務局 一般財団法人みなと総合研究財団(内)

担当:本野、井手、榎並 URL:www.rppc.jp E-mail:rppc_jimukyoku@wave.or.jp

※会員主催や会員に関係した催し物(セミナーなど)の情報がありましたらご連絡下さい。

開催案内等の情報をメールマガジンで配信いたします。

※メールマガジンに対する意見、要望がありましたらご連絡下さい。

#####